

卒業生に関するアンケート調査 結果報告

令和2年11月

広島文化学園大学

就職・キャリア支援センター

1 調査目的

卒業生就職先の企業等へ「求める人材の要件」等の調査を行い、教育の効果及び学生が修得した学修の成果等を把握し、その結果を本学の教育内容にフィードバックすることにより、更なる改善に資する。

2 調査期間

令和2年9月

3 調査対象

令和元年度卒業者が就職した企業等

4 調査方法

自記式の調査用紙（記名式）

5 回収率

学部	回答数	依頼数	回答率
看護学部	44	72	61.1%
社会情報学部	55	72	76.4%
学芸学部	41	67	61.2%
計	140	211	66.4%

6 調査内容

- (1) 事業内容
- (2) 採用の際の重視度（3項目選択）
- (3) 卒業生の資質（5段階評価）
- (4) 改善すべき事項（自由記述）
- (5) 本学の教育内容・教授方法等についての意見（自由記述）
- (6) 本学の教育についての意見（自由記述）

7 調査結果

(1) 事業内容

学部	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
看護学部													44	
社会情報学部	5	8		1	2	12	1	2	1	4	3	10	1	5
学芸学部		3		1	1	6		1			7	19	1	2

①建設 ②製造 ③電気・ガス ④情報通信 ⑤運輸・郵便 ⑥卸売・小売

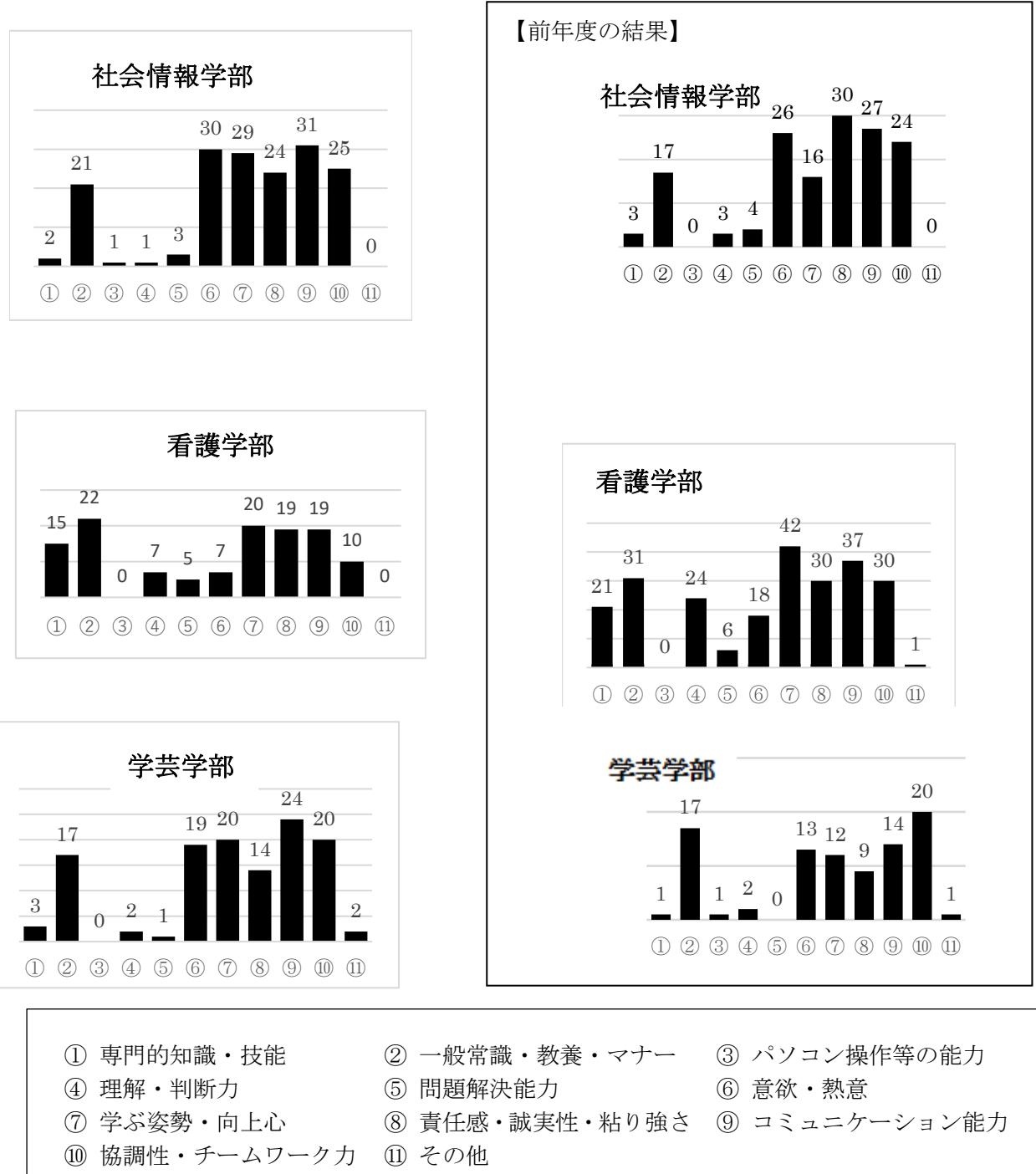
⑦金融・保険 ⑧不動産・賃貸 ⑨宿泊・飲食 ⑩娯楽 ⑪教育・学習支援

⑫医療・福祉 ⑬複合サービス ⑭その他

(2) 採用の際の重視度（3項目選択）

企業等が採用時に重視度の高い評価項目は、各学部共通して「②一般常識・教養・マナー」「⑥意欲・熱意」「⑦学ぶ姿勢・向上心」「⑧責任感・誠実性・粘り強さ」「⑨コミュニケーション能力」「⑩協調性・チームワーク力」であり、全般的にコンピテンシーの要素（⑥～⑩）がリテラシーの要素（①～⑤）よりも重視されている。

最も高い項目は、社会情報学部では「⑨コミュニケーション能力」、看護学部では「②一般常識・教養・マナー」、学芸学部では「⑨コミュニケーション能力」である。



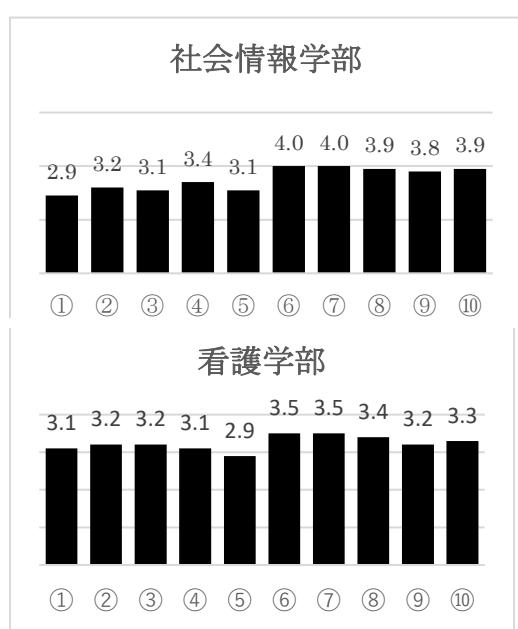
(3) 卒業生の資質（5段階評価）

卒業生の資質についての評価結果は5段階評価で2.9から4.0である。

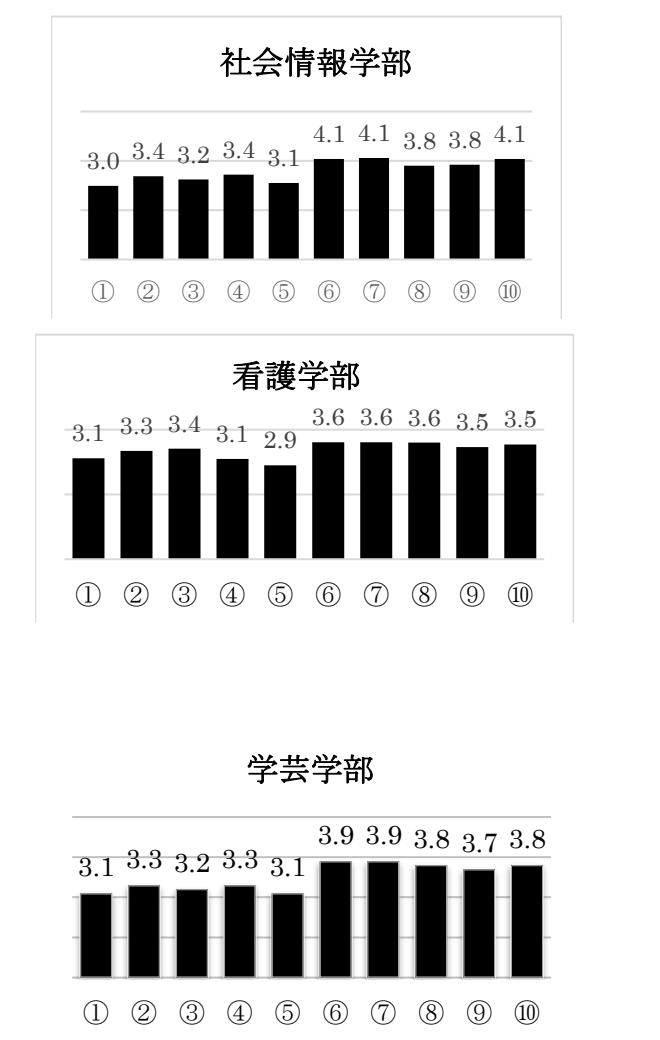
各学部共通して評価の高い項目は「⑥意欲・熱意」「⑦学ぶ姿勢・向上心」「⑧責任感・誠実性・粘り強さ」「⑨コミュニケーション能力」「⑩協調性・チームワーク力」である。

逆に、各学部共通して評価の低い項目は「①専門的知識・技能」「⑤問題解決能力」である。

全般的にコンピテンシーの要素（⑥～⑩）がリテラシーの要素（①～⑤）よりも高い評価となっている。



【前年度の結果】



- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| ① 専門的知識・技能 | ② 一般常識・教養・マナー | ③ パソコン操作等の能力 |
| ④ 理解・判断力 | ⑤ 問題解決能力 | ⑥ 意欲・熱意 |
| ⑦ 学ぶ姿勢・向上心 | ⑧ 責任感・誠実性・粘り強さ | ⑨ コミュニケーション能力 |
| ⑩ 協調性・チームワーク力 | ⑪ その他 | |

(4) 改善すべき事項（記述）

「コミュニケーション能力が高い」「丁寧な接客と笑顔で業務している」「明るく素直である」「学ぶ姿勢と粘り強さを感じる」等、肯定的な評価も多く受けている。しかし、一方では「社会人としてのマナーや一般常識の不足」「挨拶、返事、姿勢を改善すべき」等、一般常識やマナーに関することや、「タイムリーな報告・連絡・相談が不十分」等、コミュニケーション能力や協調性に関すること等について改善すべきであるとの意見をいただいた。

(5) 本学の教育内容・教授方法等についての意見（自由記述）

「学生一人ひとりへの丁寧な教育」「人間性や感性が身に付くしっかりとした教育」等、肯定的意見もあるが、「社会人としての心構え」「メンタルの強化」等、専門分野だけではなく社会人としての基礎力習得に関する意見をいただいた。